

平成29年度学校評価報告書（目標設定）

	学校目標	4年間の目標	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	・自信を持って社会参加し、自立に対する意欲をもって臨む生徒を育成する教育課程を検討し、再構築する。	①年間指導計画、学習内容表、授業案データベースを効果的に活用しつつ、新教育課程を検証しながら実践する。 ②タブレット型端末を活用した授業の実践研究をする。	①教科会等で年間指導計画、学習内容表を活用しつつ学習指導・授業に生かし、校内研究等で検討・検証する。 ②映像や音声、操作の面白さなど、生徒の実態と関心に合わせた授業を設定する。	①年間指導計画、学習内容表、授業案データベース等を活用し授業の検討、振り返りを行うことで、新教育課程について、次年度に向けて参考となる内容が得られたか。 ②タブレット操作に関心を持たせ、タブレットの使い方や学習題材に対する理解を深める授業が行えたか。
2	生徒指導・支援	・生きる力の基盤となるものを育む授業に活かせるアセスメントを検証し、指導に反映させる。 ・社会生活に必要な、他者との協調・思いやり、規範・モラルの意識を育む指導を充実させる。	①これまで実施したアセスメントを検証し、日々の授業に活かせる項目について検討する。 ②これまでのSSEの取り組みを踏まえ、社会規範をはぐむ指導を実践する。	①アセスメントを校内研究のテーマとして、校内で行われているアセスメントの内容や方法について再検討する。 ②生徒会等の活動において、仲間と協働する取り組みを設定し、学校全体で生徒指導を行う視点を持ち、家庭と連携して指導する。	①一人ひとりの生徒の課題やニーズを汲み取り、高等部3年間を見通したアセスメントができたか。 ②生徒に関わる人達と連携し、学校生活や友人との関わり方について考えさせたり、仲間と協力して物事を成し遂げる達成感を味わわせたりすることができたか。
3	進路指導・支援	・生徒が納得できる進路選択できるように、生徒の思い、状態像を反映した指導、支援を行う。	①卒業後の生活についてより具体的なイメージを持たせるために、3年間を見通した指導内容を設定し、実践する。 ②学校全体で取り組むアフターフォローの仕組みを構築する。	①各学年において、生徒が卒業後の生活についてイメージを持ちやすい職場見学を設定し、ユニット会・学年会で、作業・進路学習・実習等について検討を重ね、設定する。 ②進路担当、担任、作業UDを主な担当とし、相談担当と連携しつつ、卒業生徒、進路先の状況を把握し、支援計画を検討する。	①卒業後の生活をより具体的に生徒にイメージさせることができ、生徒の実態に合った目標、学習・作業種を設定し、適切な学習指導・支援を行ったか。 ②担当グループ全体でアフターフォロー計画を立て、学校全体で情報を共有し、必要に応じて関係機関と連携することができたか。
4	地域等との 協働	・地域の特性を活かしたセンター的機能を検討し、インクルーシブ教育の推進に寄与する。	①インクルーシブ教育について理解を深め、本校のセンター的機能のあり方を検討する。 ②地域と連携した活動の実施や、防災体制を検証することで、地域の本校に対する更なる理解推進を図る。	①校内職員や近隣関係者に向け、インクルーシブ教育等に関する情報提供、公開講座を開催し、地域による作業種の提供や学校ボランティアの活動の充実を図る。 ②サマーフェスティバルへの協力・協賛。地域防災拠点運営委員会と本校の防災避難教育への互いの参加。	①関係者に対する情報提供及び理解を深める内容の講座を設定したり、地域資源を活用した作業種の提示や、ボランティアとの連携及び本校に対する理解を深める効果的な取り組みができたか。 ②サマーフェスティバル等、地域主催の行事への参加、地域防災拠点運営委員会での活動によって、地域に対して本校への理解を深める取り組みができたか。
5	学校運営 学校管理	・学校・教職員の特別支援教育の専門性をより向上させる。 ・事故を未然に防ぎ、学校への信頼を維持する。	①より一層意欲的な校内研究をめざし、効果的な研究手法等を構築する。 ②各業務内容や分担の見直し等を通して、円滑な業務遂行の方策を検討する。	①校内研究において、多くの自由な意見が出るよう、少人数での議論の場を設定する。 ②各グループの年間業務計画の共有、業務内容の精選をしつつ、分担を整理し、引き継ぎやすい方策を検討する。	①職員が意欲的に研究に取り組み、意見交換が活発に行われたか。 ②各グループの業務内容を精選し、各業務分担を円滑に引き継ぐことができたか。